

これまでの織物の技術を生かした 新しい製品の開発に取り組んでいく

社名 栗田煙草育苗布製造株式会社
所在地 栃木県佐野市堀米町1636
電話 0283-22-3101
HP www.kuritatabaco.jp
代表者 代表取締役社長 栗田昌幸
従業員 63人（パート含む）

栗田煙草育苗布製造

栃木県佐野市

栃木県佐野市にある栗田煙草育苗布製造は、織物製品の一つである寒冷紗かんれいしやの一貫生産を行っている。寒冷紗はもともとは主に農業用に使われるものだったが、同社では自社が持つ技術を生かして多種多様な製品を開発・生産している。それらを製造業や建築業で使われる製品の「部品」として提供していくことで、日本のものづくりに貢献している。

寒冷紗の特性を生かした 新たな製品開発へ

「寒冷紗」という耳慣れない名前前のこの製品は、実は私たちの生活と密接に関わり合っている。糸の目を粗く織り込んだ布で、適度に空気を通して光をさえぎることから、農作物の芽や苗を覆って日除けや防虫、防寒、霜除けなどに使われている。工業用としては建築物の床材の裏地などにも使われ、日用品としては台所用の市販のふきんにも使われている。

自社の製品について、栗田煙草育苗布製造の社長、栗田昌幸さんはこう語る。「弊社の寒冷紗は、もともとはタバコの苗を育てるためにつくったのが始まりです。そのため社名が栗田煙草になっているのです。同じく社名に入っている

育苗布は、その名のとおり苗を育てるための布という意味です。タバコだけでなくそのほかの農作物にも使われるようになり、主に農業用に使われてきました。その後、農業用の需要が減ったことから、同じ技術を使った産業資材の製品にシフトしていききました」

今はタバコの苗に使われることはほとんどないそうだが、社名に「煙草」を残したのは、その名前の珍しさもあるからだという。「タバコをつくっているんですかとよく聞かれます。でも、この社名のおか

げで、話がつながっていくこともあります」（栗田さん）

これまでの技術をベースに製品の付加価値を高める

同社が産業資材に切り替えていったのは1990年ごろ。農業資材としては寒冷紗に代わる安い製品が普及してきたことから、経営的に厳しくなってきた。当時の社長で現会長である栗田重雄さんは危機感を持ち、寒冷紗の特性を生かした新たな製品開発に進ん

世界から信頼される日本のものづくりを支えてきた製造業。そのさまざまな部品をつくってきた企業「部品屋」が、市場の変化を的確に読み、自社の培ってきた独自の技術を基に新たな分野へ挑戦し、業績を上げている。時代が求めるものづくりへ情熱を燃やす、日本各地の「部品」製造業者の取り組みを追った。

新分野を開拓 部品屋の挑戦

特集1

日本のものづくりは揺るがない